

再評価調査

事業名	二級河川佐野川 河川改修事業			
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 改良グループ(連絡先 06-6944-9297)			
事業箇所	泉佐野市中庄地先～泉佐野市上瓦屋地先			
再評価理由	事業採択後 10 年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	佐野川は、広域幹線道路である国道 26 号、170 号が縦横に走り、沿川に人家が連担している。本河川においては、大阪府の当面の整備目標水準である時間雨量 50 mm の大雨が降った場合に発生する洪水を安全に流下させ、安全・安心で豊かな生活環境を築くために河川改修事業を進める。		
	内容	改修延長：L=約 0.58km 目標流量：130m ³ /s(時間雨量 50.0mm) 護岸工：約 0.58km、道路橋：2 橋、落差工：1 箇所		
	事業費	全体事業費：約 33 億円(約 33 億円) うち投資済事業費：約 13 億円 (内訳) 調査費等約 2 億円(約 2 億円) (内訳) 調査費等約 1 億円 用地費 約 19 億円(約 19 億円) 用地費 約 9 億円 工事費 約 12 億円(約 12 億円) 工事費 約 3 億円		
	()内の数値は計画時点のもの	【事業費の変更理由】 変更なし	【工事費の内訳】 護岸工 約 9.8 億円 道路橋 約 2 億円 落差工 約 0.2 億円	
	事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】 市道橋梁架替えについては、橋梁管理者と適宜協議を実施。 【事前評価時に予測した事業費変動要因の状況】 橋梁管理者との協議内容により事業費の変動の可能性がある。 【計画変更の予定】 特になし。		
	維持管理費	約 17 百万円/年(実績等に基づく算定)		
	上位計画	佐野川水系河川整備基本方針[H12.12] 佐野川水系河川整備計画[H13.3] 大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版[H17.3]		
	関連事業	なし		
事業の進捗状況	経過	事前評価時点 (評価なし)	再評価時点 (H21)	分析
	事業採択年度	H12	H12	用地取得に関する地元調整に当初想定以上の期間を要したため。
	事業着工年度	H12	H12	
	完成予定年度	H21	H28	
	進捗状況		用地:60%<0.5ha / 0.84ha> 工事: 39% 整備済延長約 0.1km(17%)	
今後の事業進捗の見通し	・河川整備計画に従い、国道 26 号～中庄橋上流落差工間(0.58km)の改修を進める。 ・用地買収については、引き続き任意交渉による取得に努めるとともに、並行して事業認定の申請についても検討する。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】特になし			

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	分析
		氾濫区域面積 6.8ha 浸水家屋数 236 戸	氾濫区域面積 27.3ha 浸水家屋数 688 戸	・治水経済調査の実施マニュアルの変更に伴い、氾濫シミュレーションの解析手法が変更となった。(治水経済調査要綱 H12.5 治水経済調査マニュアル H17.4) ・解析手法の変更に伴い、区域面積及び浸水家屋数が増えた。
	地元等の協力体制	・特になし	・特になし	・工事に際し、地元からの反対はない。

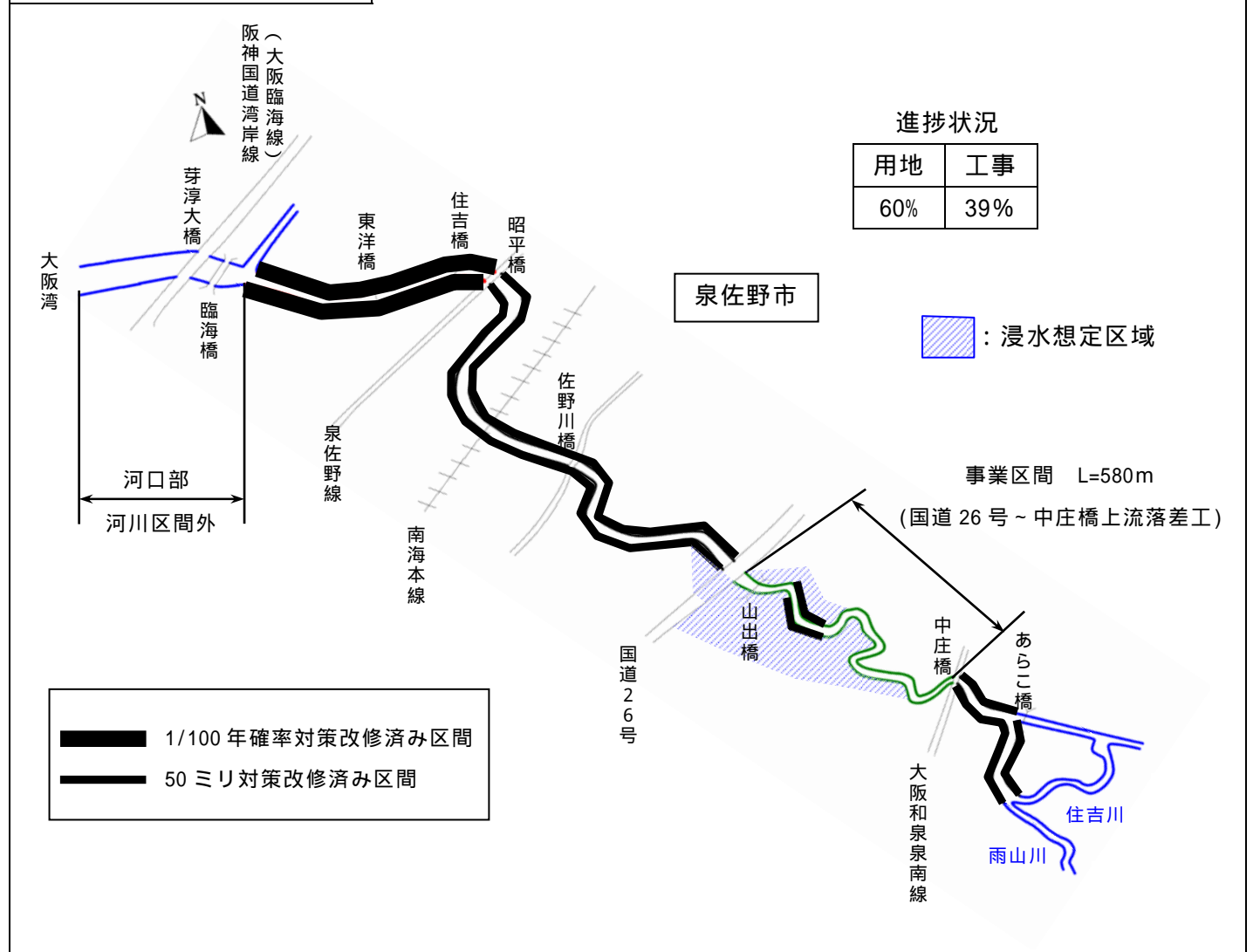
		事前評価時点での状況		再評価時点での状況(変更点)	分析
			備考		
事業効果の分析	費用便益分析	<ul style="list-style-type: none"> B / C = 1.643 便益総額 B = 51.6 億円 総費用 C = 31.4 億円 	平成 12 年 二級河川佐野川河川整備計画策定時における事業効果分析の指標 <ul style="list-style-type: none"> ・便益内容：資産被害抑止効果 ・受益者：周辺住民、農業従事者 ・事業効果算定の根拠：治水経済調査要綱 H12.5 	<ul style="list-style-type: none"> B / C = 1.25 便益総額 B = 44.9 億円 浸水被害軽減便益 44.9 億円 総費用 C = 36.0 億円 建設費：32.3 億円 維持管理費：3.7 億円 <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益算定の根拠：治水経済調査マニュアル(案) H17.4 	<ul style="list-style-type: none"> ・治水経済調査の実施マニュアルの変更に伴い、氾濫シミュレーションの解析手法が変更となった。(治水経済調査要綱 H12.5 治水経済調査マニュアル H17.4) ・解析手法の変更に伴い、氾濫区域面積及び浸水家屋数が増加したものの、浸水水深は減少した。これにより、年平均被害額軽減期待額が減少し、便益総額が減少したため、B / C が減少。
	その他の指標(代替指標)				
	定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> <安全・安心>：浸水被害の軽減(生命や財産) ・河川改修により、治水安全度を向上し、府民の生命・財産を守る。 <活力>：交流拠点の形成(良好な水辺空間) ・植物や小動物などの生息する多自然川づくりによる改修や景観と調和した河川整備を行う。また、堤防などを利用した遊歩道や自転車道を整備し、主要施設を結ぶネットワークとして整備していく。 <快適性>：景観(周辺と調和した水辺景観) ・自然環境に配慮した河川改修により、視覚的に安らぎを与える水辺環境を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> <安全・安心> ・河川改修の実施済区間では、治水安全度が向上している。 <快適性> ・景観ブロックを採用し、周辺と調和のとれた整備を行っている。 	
自然環境等への影響と対策	(影響) ・河川改修は、極端な湾曲部の解消、現況河道の拡幅及び河床掘削により行われる。工事に伴い、現況植生は失われることになる。また、魚類、底生動物についても瀬及び淵が一時的に失われることとなる。 (対策) ・改修前の環境に近づけるため、自然に配慮した護岸構造とし、魚類の遡上可能な落差工とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画に従い、自然環境の保全と回復に配慮した河川改修を実施。 		
その他特記すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> ・泉佐野市のハザードマップは作成済みであり、市役所ホームページで公表されている。 			
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	【意見具申】 【府の対応方針】	(前回評価に対する具体的な取組み) <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き事業進捗に努める。 			

二級河川佐野川河川改修事業概要図

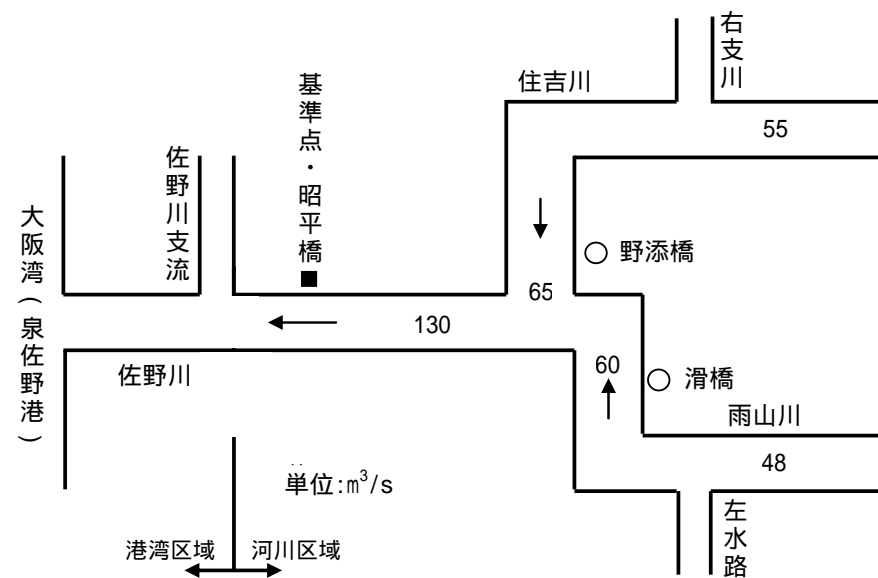
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

